

学年	高校 1 年	教科	芸術	科目	音楽 I	単位数	2
教科書名		Mousal (教育芸術社)		副教材名	Music Note (啓隆社)		
コース・クラス		N 進					

I. 目標

- ・音楽の諸活動を通して、創造的な表現の能力を伸ばし鑑賞の能力を高めるとともに、音楽に対する豊かな感性と音楽を愛好する心情を養う。

II. 授業のねらい

- ・感性を働かせて音楽の諸要素を知覚し、音楽の美しさを感じ取り、創造的な音楽活動の工夫をする。
- ・自己のイメージを持ち、創造的な表現をするための技能を取り入れる。
- ・多様な音楽を理解し、そのよさや美しさを創造的に感じる心を育てる。
- ・合唱を通じて、他者とのハーモニーを作り上げる技術を身につける。
- ・器楽合奏を通じて、合奏する喜びを体感する。
- ・西洋音楽の基礎・基本を取り入れる。

III. 授業の進め方

- ・発声練習を、コンコーネ 50 番などの教材を使いながら行う。正しい発声（ベルカント唱法）を身に付けたうえで教科書やプリントの曲を歌唱する。
- ・ドレミ唱や母音唱を行い、その後原語の発音練習を行う。ただ歌うのではなく、正しい発音や音取りを心掛ける。その楽曲の時代背景や作曲者について学ぶ。
- ・器楽においても、楽譜の読み方から奏法に及ぶまで丁寧に説明をしたうえで学ぶ。

IV. 学習上の留意点

- ・教科書、Music note、筆記用具を必ず持参する。
- ・歌唱する際は、きちんとした姿勢で取り組む。
- ・鑑賞の記録等は指示に従って提出する。

V. 定期試験

定期試験期間では行わず、歌唱テストを授業時間中に行う。時期は、各定期試験の 1 週間前の授業内とする。また、実技試験を行えない状況の際には、授業時間中にペーパー試験を課す場合もある。

VI. 評価の方法

- ・実技では歌唱テストおよび器楽テストなどを行い、鑑賞ではノートの記載の適切さを確認し、評価をする。授業態度（忘れ物を含む）を平常点として、忘れ物、授業態度が適切でない者（遅刻・私語・授業に不必要な持参物等）は減点する。

VII. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	<ul style="list-style-type: none"> 発声練習、コンコーネ 50 番より N01、校歌斉唱、学園愛唱歌斉唱、翼をください (歌唱)、鑑賞 (DVD) 「バッハを中心に」「ファンタジア 2000」 歌唱テスト (独唱) 学期に 2 回 発声練習、コンコーネ 50 番より N02、見上げてごらん夜の星を (歌唱)、鑑賞 (DVD) 「コーラス」、「天使にラブソングを」 	実技テスト提出物 授業態度	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を愛好し、音や音楽に対する興味・関心を高めることができる。
	5			<ul style="list-style-type: none"> 感性が高まり、音楽のよさや美しさを感じ取って、創造的な音楽活動の工夫ができる。
	6			<ul style="list-style-type: none"> 自己のイメージを表現するための技能を身に付け、それを生かして創造的に表現することができる。
	7			<ul style="list-style-type: none"> 多様な音楽に対する理解が深まり、創造的に鑑賞することができる。
二学期	9	<ul style="list-style-type: none"> 発声練習、コンコーネ 50 番より N03、「O`sole mio」、イタリア語について学ぶ、鑑賞 (DVD) 「天使にラブソングを 2」 発声練習、コンコーネ 50 番より N05、イタリア歌曲「Caro mio ben」、鑑賞 (DVD) 「過去の校内合唱コン DVD」 「ドラム・ライン」 歌唱テスト (独唱) 学期に 2 回 合唱コンクールの選曲、及び課題曲の音取り。曲に関しては、その年度の様子を見て選曲する。課題曲に関しても同様。 器楽合奏 (打楽器メインの曲 およびハンドベル) リズムパーカッション 発声練習、コンコーネ 50 番より N08、鑑賞 (DVD) ・合唱コンクールに向けて、ベートーヴェン「交響曲第九番第四楽章合唱付き」をドイツ語で鑑賞 (DVD) 	実技テスト提出物 授業態度	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を愛好し、音や音楽に対する興味・関心を高めることができる。
	10			<ul style="list-style-type: none"> イタリア語の正しい発音ができている。また、歌詞を理解して歌唱することができる。
	11			<ul style="list-style-type: none"> 多様な音楽に対する理解が深まり、創造的に鑑賞することができる。
	12			<ul style="list-style-type: none"> 合唱することの意味を考え、歌詞、音取りは正しくできている。 器楽合奏は、自分の技術を磨くことに加え、他者と合わせる事がきちんとできる。 リズムパーカッションでは、協調性をもって取り組むことができる。
三学期	1	<ul style="list-style-type: none"> 発声練習、コンコーネ 50 番、N011、「野ばら」 (ドイツ語)、合唱コンクールの練習。 合唱コンクール本番 歌唱テスト (独唱) 「野ばら」 合唱コンクールの振り返り 	実技テスト提出物 授業態度	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語の正しい発音ができている。また、歌詞を理解して歌唱できている。
	2			<ul style="list-style-type: none"> 合唱においては、クラスとしてのまとまりが十分であるか、ハーモニーは整っている。
	3			

※ シラバスの内容 (時間や事項) については、理解度やその他の都合により変更することもあります。